



多建発第 15 号
平成19年4月23日

国土交通省 道路局長 様

犬上郡多賀町長 夏原



道路政策の中期的な計画の作成にあたっての意見について (回答)

平成19年4月2日付け、国道企第114号で依頼のあった標題の件について、
別紙のとおり回答いたします。

今後の道路政策や道路の整備・管理に関する意見書

【犬上郡多賀町長 夏原 寛】

○重点化を進める上で特に優先度の高い政策について

・国道307号 急勾配区間解消

積雪地である本町を通過する国道307号の大字敏満寺地先名神高速道路ボックスから多賀町役場隣接である多賀信号間については、道路縦断勾配が急勾配のため、大型車の排気ガスによる周辺への環境汚染や、特に冬期の積雪時には大型車のスリップによる大渋滞と凍結によるスリップ事故等が多発し、また名神高速道路の通行止めによる迂回車両が渋滞に拍車をかける事態も度々あり、滋賀県の道路整備アクションプログラムの後期整備計画にもその位置付けはされており、その実施が急務と考えます。

滋賀県においても、昨年度からこの区間の現況調査等に一部着手いただきましたが、現道での切下げ工事については、隣接する墓地の関係や通行の確保、また仮設道路付け替え等、経費面からも適当でなく、別ルート（バイパス）での整備が必要と承っております。

これが実現することで、本町においても沿道の総合的な開発計画が可能であり、正に地域と密着した道路整備が実現すると確信いたしております。

・国道306号 「仮称、新鞍掛トンネル整備」の早期事業化

滋賀県湖東地域と三重県中部を結ぶ当該国道の内、多賀町大字大君ヶ畑地先から、県境を挟んで三重県いなべ市までの区間は、鈴鹿山麓の急峻な地形から、急カーブや急勾配が連続する箇所であり、冬期（12月上旬～3月末）の通行止めや、道路法面崩壊復旧工事のための通行止め等、一年の内その大半が通行できない事態も度々起こっており、物流を中心にその影響は大であり、緊急輸送等危機管理面からも早期事業化による整備が必要である。

一方、当該地域は鈴鹿国定公園内にあり、道路縦断勾配が急な区間が数キロに及び、大型車の排気ガスによる周辺地域への環境汚染にも繋がっており、当該国道の整備促進同盟会としても、毎年その要望活動を実施しているところである。

・国道8号バイパス 彦根市地先から以南の早期事業化

当該国道の彦根市地域は、慢性的な交通渋滞区間であり、通過交通と生活道路としての使い分けが出来るバイパスの早期事業化が望まれる。

○効率化を徹底的に進める上で重視すべきことについて

・道路補修と過積載車両の取締り強化について

地方の国道においては、未だ過積載車両が多く見られ、その取締りは皆無に等しく、道路補修においては後を絶たず、同一区間を毎年のように補修されているのが現状であり、過積載等の取り締まりも強化すべきである。

・高速道路とのアクセス道路を含めた道路網整備について

近年多く見られるようなスマートICの整備を促進し、その地域の特色を生かした道路網整備が必要であり、幹線道路と関連する一般道路の一体的な道路整備には地方の裁量を高め地域の課題を併せて解決できる整備方針が必要である。

○道路の整備・管理全般に関して

・地域の実情に見合った道路整備について

少子高齢化や過疎と言った社会現象により、今まで歩道の必要が無かった道路においても、地域の実情により子供や高齢者が安全に利用できる歩道整備が必要となっている。また、歩道幅員についても画一的な整備でなく、地域の実情に見合った歩道幅員であって良いと考える。